

馬見ヶ崎川合口頭首工

み
水

ど
土

り
里

ウオーク

水の恵みはここから

山形の秋の風物詩といえは芋煮会。秋になると、馬見ヶ崎川河川敷は芋煮会場として賑わいを見せる。馬見ヶ崎川の上流、山形自動車道の山形蔵王インターチェンジから東に進むと、川の中に大きな施設が見えてくる。これが、「馬見ヶ崎川合口頭首工」である。頭首工とは、川を堰き止め、農業用水を取水する施設である。この馬見ヶ崎川合口頭首工は、昭和55～57年度にかけて造成され、山形市内660haの農地に用水を供給しており、最上川中流土地改良区により管理されている。

馬見ヶ崎川合口頭首工に関係するものとして「山形五堰」がある。江戸時代からの歴史を持ち、頭首工を水源として市内一円を巡り、下流の農地に水を届けている。そのほか、「最上川中流小水力南館発電所」がある。これは頭首工から南館調整池までの高低差を利用して発電する小水力発電施設であり、農業用水は農地に届く前にもこのように活用されている。農業用施設は田んぼや畑といった農地だけでなく、私たちの暮らしにも潤いや安らぎをもたらしている。

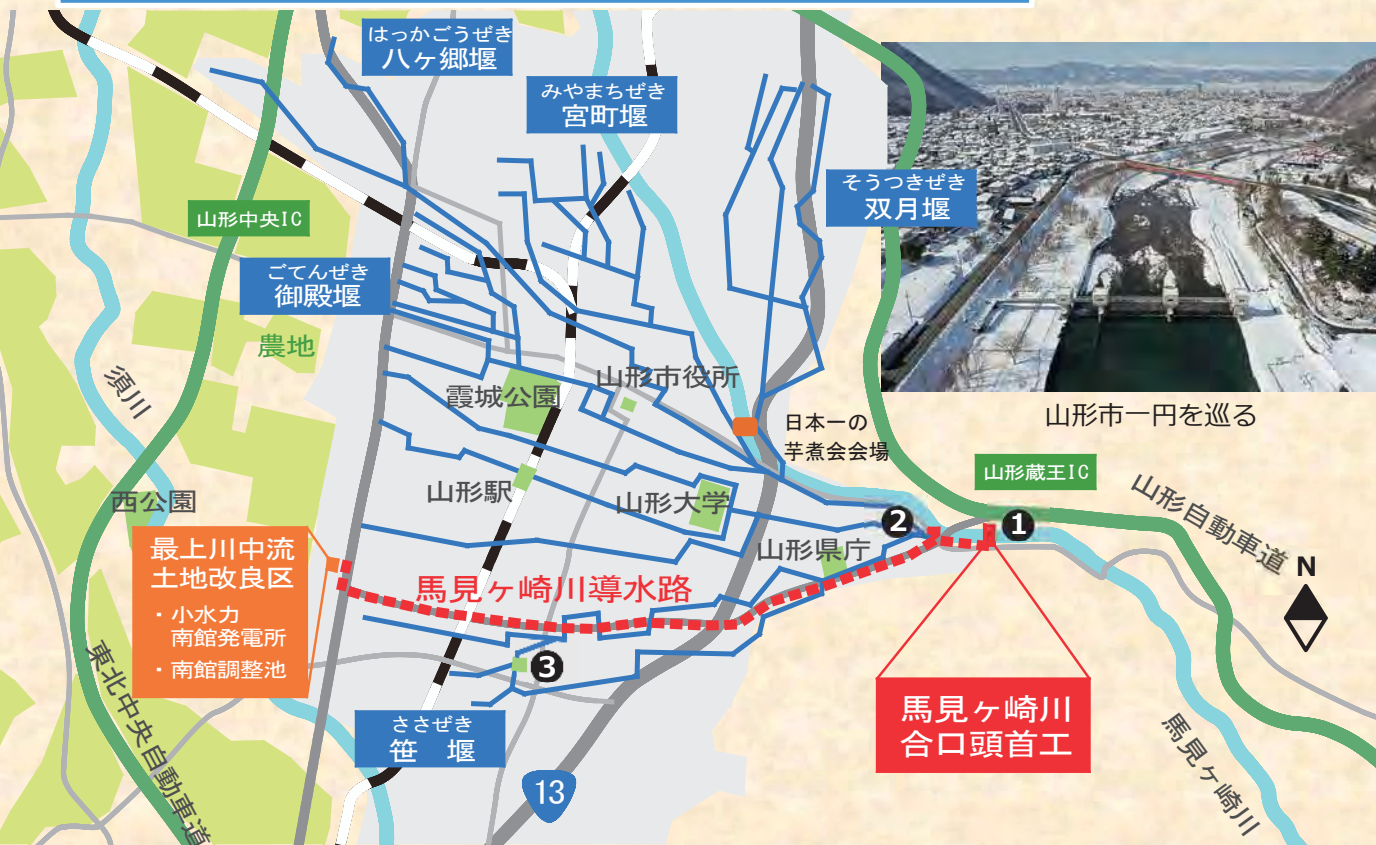
農業用水を活用した小水力発電も行っています

最上川中流小水力南館発電所では、馬見ヶ崎川合口頭首工から長さ約6.6kmの馬見ヶ崎川導水路（管路）を通り、南館調整池までの総落差約106mを利用して水力発電をしている。温室効果ガスを排出せず、国内で生産できる再生可能エネルギーとして有望視されている。この施設での発電量は、年間最大650万kWhにも及び、これは一般家庭約1,800世帯分の年間使用電力量に相当する。



最上川中流小水力南館発電所

馬見ヶ崎川合口頭首工周辺マップ



③ ~天沼(てんぬま)~
五堰に残る唯一のため池



② ~御殿・八ヶ郷堰親水広場~
和風庭園のような趣のある空間



① ~せせらぎ水路と遊歩道~
水遊びや散歩が楽しめる

山形五堰を辿ってみよう



住民参加によるクリーン作戦



市街地を流れる(笹堰)

江戸時代、馬見ヶ崎川から水を引くため、五つの堰(笹堰、御殿堰、八ヶ郷堰、宮町堰、双月堰)を設けたのが始まりとされる。現在、取水口は馬見ヶ崎川合口頭首工に統合されたものの、市街地を網目状に流れており、今もその役割を果たしている。これらの堰は山形市内の街並みに溶け込んでいる。市民の身近にある、歴史を感じられる堰を辿ってみよう。

● 問合せ 最上川中流土地改良区 TEL: 023-645-1210

【山形五堰については、山形市農林部農村整備課 TEL: 023-641-1212 (内線 440)】